

2019年8月14日
日本船主協会 企画部広報室

NYK バルク・プロジェクト
多目的コンテナ船「South Islander」の見学会を実施

当協会は、「海と日本プロジェクト」の一環として、会員会社をはじめ、関係団体と連携し、商船や造船所の見学会などを「船ってサイコ〜」と題し実施し、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力をいれております。

今般、NYK バルク・プロジェクトのご協力のもと7月31日（水）に神戸市・六甲アイランド、8月1日（木）に名古屋市・金城ふ頭、8月2日（金）に横浜市・大黒ふ頭において、多目的コンテナ船「South Islander」（全長 161m・高さ 25m）の見学会を3日連続で開催しました。台風等の影響もあり日時が変更になったにもかかわらず、親子連れを中心に計60名が参加しました。

各日、同社 小谷船長（神戸）・小川海技者（名古屋・横浜）の案内のもと、貨物デッキを経由し、キャビンや操舵室（ブリッジ）、機関室（エンジンルーム）、船長室等を見学して頂きました。

本船の船長の歓迎挨拶とともに、キャビンでは本船の概要や主な航路・貨物などをクイズ形式で質問したり、本船の船員がフィリピン人であったことから「ありがとう」「楽しかった」などのタガログ語を学ぶなど、参加者との交流を深めました。

操舵室では、レーダーや電子海図等の説明を行うとともに、コンテナの荷役を間近でみるなど、参加者は船・港のダイナミックさを体感することができました。また、子供たちは舵を操作し「この大きな船がこんな小さなハンドルで動くのは信じられない」など初めての体験に興奮した様子でした。



機関室では、巨大なメインエンジンや発電機などの傍を歩き、初めて見る様々な機器を参加者は興味津々で見学していました。「船は実際何馬力に相当するのか」といった質問や各機器の役割などを中心に質問が飛び交っていました。また、機器が故障した際の修理方法や故障を未然に防ぐ為に日々点検は欠かせないなど対処法を参加者に説明しました。

見学中、参加者からは、「(野菜やアイスもコンテナで運べるという説明に) どのように冷蔵・冷凍しているのか」「一日どれぐらいの燃料が使われているのか」「どうして船員を目指したのか」など質問がでたほか、見学会後に実施したアンケートでは、「実際に働いている船に乗り、音や狭さ、熱さ、振動を体験できたのでとてもいい経験になった」「将来の仕事の可能性が考えられる良い機会になった」「船は物流の要であるが、大変な仕事であることがよく分かった」等のコメントが寄せられました。

当協会は引き続き会員会社と連携し、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。

